

水俣市教育委員会点検・評価報告書

(平成24年度実績)

平成25年10月

水俣市教育委員会

目次

教育委員会の点検・評価について	1
教育委員の活動状況	3
点検・評価の結果について	
小中学校耐震化推進事業	4
学力向上対策事業	6
いじめ・虐待・不登校児童生徒対策事業	8
環境教育（学校版環境 I S O）の推進事業	10
給食センターにおける食育・地産地消推進事業	12
日本一の読書のまちづくり事業	14
人権教育推進事業	16
文化会館自主文化事業	18
公民館自主事業	20
市民スポーツの推進事業	22

教育委員会の点検・評価について

1 経緯

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）の一部改正により、平成 20 年 4 月から、教育委員会は、その権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価（以下「点検・評価」という。）を行い、その結果の報告書を作成し、議会に提出するとともに公表することとされました。

この報告書は、これに基づいて点検・評価を行ったものです。

2 点検・評価の対象

点検・評価の対象は、水俣市教育委員会に権限に属する事務のうち、重要な政策・事業とされるものを対象としています。

3 点検・評価の方法

点検・評価の方法は、市が実施する政策事業評価の手法を活用して実施することとしました。

4 学識経験者の知見の活用

地教行法第 27 条第 2 項の規定による有識者の知見の活用については、教育委員会事務局が行った点検・評価（自己評価）の結果について、市民監査委員 2 名から意見を伺いました。

<参考>

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

教育委員の活動状況について

1 教育委員会の会議の開催状況

教育委員会の会議は、毎月1回の定例会を開催し、必要に応じて臨時会を開催しています。平成24年度の開催状況は次のとおりです。

- (1) 教育委員会定例会 12回
- (2) 教育委員会臨時会 3回

2 審議等の件数

(1) 審議事項 61件

審議内容	件数
規則、訓令等の制定又は改廃に関する事	14
職員及び附属機関の委員の任免、その他の人事に関する事	10
議会の議決を経るべき議案についての意見の申出に関する事	4
その他	33

※その他…教科書採択、奨学生の決定、後援の承認など

(2) 協議事項 21件

学校教育努力目標、次回の会議の開催日時など

(3) 報告事項 41件

市議会報告、学校教育活動に関する月例報告、催し物の結果報告など

3 水俣市教育委員名簿

平成25年3月31日現在

職名	氏名
委員長	荒木 由紀子
委員（委員長職務代理者）	河田 奈保子
委員	山田 誠次
委員	堀 浄信
委員（教育長）	葦浦 博行

教育委員会重要政策実施状況評価表

事業名	01	小中学校耐震化推進事業	
事業期間	平成21年度から平成24年度		担当部署 教育総務課

1. 政策の目的・目標

学校施設は、多くの児童生徒等が一日の大半を過ごす学習、生活等の場であることから、地震発生時においては、児童生徒等の人命を守るとともに、被災後の教育活動等の早期再開を可能とするため、施設や設備の損傷を最小限にとどめることなど、十分な耐震性能を持たせて学校施設を整備することが重要です。

そのため、昭和56年以前に旧耐震基準で建設された学校施設について、耐震診断及び耐震補強工事を実施し、学校施設の耐震性能を確保することを目的とする。

2. 投入経費と指標

(1) 【投入経費】(単位：千円)

	平成22年度	平成23年度	平成24年度
事業費 (A)	520,215	145,007	84,359
換算人件費 (B)	1,280	1,280	1,280
投入経費 (A+B)	521,495	146,287	85,639
(参考) 間接事業費	0	0	0

※換算人件費は事業に従事した延べ日数に27千円を乗じて算出すること

※(参考)間接事業費は、市費、国県補助以外で、事業に行うにあたり投入された経費を記入

(2) 【活動目標】

	平成22年度	平成23年度	平成24年度
目 標	耐震補強工事(一小、二小、袋小中、葛渡小中、久木野中、湯出中) 実施設計(二小、水東小)	耐震補強工事(二小)	耐震補強工事(水東小)

■本年度活動目標の説明(事業として何をするか)

水東小学校の耐震補強工事の完了

(3) 【実績】

	平成22年度	平成23年度	平成24年度
実 績	耐震補強工事の完了 8棟 (体育館) 一小、二小、袋小、袋中、湯出中、久木野中 (校舎) 葛渡小、葛渡中	耐震化工事の完了(二小)	耐震化工事の完了(水東小)

■本年度の実績の説明(目標に対してどの程度達成したか)

水東小学校の耐震補強工を完了することができた

3. 状況評価

(1) 成果		点数	理由
○	想定以上に成果があがった	4	水東小学校の耐震補強工事が予定どおり完了することができた
	想定どおりの成果であった	2	
	想定を下回った	0	
	想定を大きく下回った	-1	
(2) 効率性		点数	理由
○	大変効率よくできた	3	想定工期よりも早く完了することができた
	概ね効率よくできた	2	
	効率がよくなかった	1	
	全く効率が悪かった	0	

【総合評価】

- A かなりの成果を上げ、今後も維持できるよう努めるもの (7~6点)
- B 一応の成果は上げているが、更なる向上を目指すもの (5~4点)
- C 改善若しくは早急の見直しが必要なもの (3~2点)
- D 当初の目的を達しないなど、事業そのものが困難なもの (1~-1点)

評価	点数
B	4 点

4. 今後の方向性 (課題と見直し)

(1) 課題と方向性	維持	改善	見直し	休止	終了
無事終了することができた					
(2) 改善・見直しの具体的内容					

5. 政策に対する意見

(1) 市民監査委員
<p>小中学校の耐震化工事は児童生徒の生命を守り、地域の緊急時の避難場所の確保のために極めて大切である。耐震化工事を推進することにより施設設備の損傷を最小にとどめると共に、児童生徒は安心して学習でき、楽しい生活をおくることができる。(H24年度事業ではないが)久木野の場合、耐震化工事が、文化祭の時期と重なり、文化祭が実施できなかった。久木野中の閉校だけでも、子ども達の心には傷が残るのに、閉校前最後の文化祭ができなかったというのは、更に傷を深めることにつながった。工事のスケジュールを組む段階で、もう少し配慮ができなかったものかと残念に思う。また、閉校された後の校舎(久木野中・三中・湯出中)の問題もある。何らかの対応を今後もお願いしたい。</p>
(2) 教育委員
<p>深刻な被害を受けるような大きな地震が来る前に、全ての学校の耐震補強工事が終了したことが良かった。今後も各学校の設備や管理状況を的確に把握し、早めの危機回避対策を行っていきたい。また閉校された校舎について、犯罪の温床等にならぬよう、早急な対応が必要と思われる。</p>

教育委員会重要政策実施状況評価表

事業名	02	学力向上対策事業	
事業期間	平成22年度から平成24年度		担当部署 教育総務課

1.政策の目的・目標

水俣市の児童生徒の学力充実・向上は、保護者も市民も指導する教師も願うところである。水俣市学校教育努力目標像を「学びの心をもつ子ども、育ての心をもつ教師、はずむ心のある学校」と設定し、その実現に向けて、各学校では、学校や地域の実態に即して教育目標を定め、適切な教育計画のもと、具体的な実践をとおして、教育目標達成の実現に努めるものである。児童生徒の学力充実・向上に向けて、教師の資質の向上や授業力の向上、地域に開かれた学校運営を目指し、様々な角度から目的・目標に迫れるよう事業を推進する。

2 投入経費と指標

(1) 【投入経費】

	平成22年度	平成23年度	平成24年度
事業費 (A)	3,288	3,288	3,351
換算人件費 (B)			
投入経費 (A+B)	3,288	3,288	3,351
(参考) 間接事業費			

※換算人件費は事業に従事した延べ日数に27千円を乗じて算出すること

※(参考)間接事業費は、市費、国県補助以外で、事業に行うにあたり投入された経費を記入

(2) 【活動目標】

	平成22年度	平成23年度	平成24年度
目 標	学力向上宣言に基づき、具体的実践とその評価を実施し、児童生徒の学力向上を図る。	学力向上宣言に基づき、具体的実践とその評価を実施し、児童生徒の学力向上を図る。	学力向上宣言に基づき、具体的実践とその評価を実施し、児童生徒の学力向上を図る。

■本年度の活動目標の説明（事業として何をするか）

- ・水俣市学力向上宣言に基づく各学校の具体的取組の状況を2回調査し、実効性を検証するとともに、改善策を提言する。
- ・市教育委員会指定学力向上研究指定校（緑東中学校）において研究発表会を開催する。
- ・第8回みなまた教育フォーラムを開催する。
- ・年3回の教育セミナーを開催する。

(3) 【実績】

	平成22年度	平成23年度	平成24年度
実 績	学力向上プロジェクト会議、資質指導力向上対策委員会の実施、市指定学力向上研究成果発表会（袋中）開催、第6回みなまた教育フォーラムの実施	学力向上プロジェクト会議、資質指導力向上対策委員会の実施、市指定学力向上研究成果発表会（水二小）開催、第7回みなまた教育フォーラムの実施	学力向上プロジェクト会議、資質指導力向上対策委員会の実施、市指定学力向上研究成果発表会（緑東中）開催、第8回みなまた教育フォーラムの実施

■本年度の実績の説明（目標に対してどの程度達成したか）

- ・活動目標に掲げた内容は、すべて実施できた。

3. 状況評価

(1) 成果		点数	理由
○	想定以上に成果があがった	4	<ul style="list-style-type: none"> 熊本県学力調査の結果を指標の一つに上げていたが、中学校はおおむね達成したが、小学校は想定を下回った。 みなまた教育フォーラムにおいては、①個人・学校の顕著な研究実践、②コミュニティスクール、図書館活用教育の報告ができた。
	想定どおりの成果であった	2	
	想定を下回った	0	
	想定を大きく下回った	-1	
(2) 効率性		点数	理由
○	大変効率よくできた	3	<ul style="list-style-type: none"> 学力向上プロジェクト会議、資質指導力向上対策委員会の回数は減らしたが、予定した内容は実施することができた。 市内の教職員が満足できる教育セミナーを開催することができた。
	概ね効率よくできた	2	
	効率がよくなかった	1	
	全く効率が悪かった	0	
【総合評価】 A かなりの成果を上げ、今後も維持できるよう努めるもの (7~6点) B 一応の成果は上げているが、更なる向上を目指すもの (5~4点) C 改善若しくは早急の見直しが必要なもの (3~2点) D 当初の目的を達しないなど、事業そのものが困難なもの (1~-1点)			
		評価	点数
		B	5 点

4. 今後の方向性 (課題と見直し)

(1) 課題と方向性	維持	改善	見直し	休止	終了
<ul style="list-style-type: none"> 熊本県学力調査の結果で、県平均を上回る学年・教科の数を増やす。 みなまた教育フォーラムで発表・報告する内容を検討し、学校での実践に繋がる内容を増やす。 					
(2) 改善・見直しの具体的内容					
<ul style="list-style-type: none"> 熊本県学力調査では、小学校の結果の向上を目指し、改善策について学力向上のための研修会を開催する。 学力向上プロジェクト会議・資質指導力向上対策委員会によるプロジェクトを、「学校教育改革プロジェクト」に変更し、学力向上委員会、水俣科推進委員会、学校開放推進委員会の3部会で組織する。心の教育、学校開放の視点を含めて、児童生徒の心の安定を図り、学力向上対策を講じる。 					

5. 政策に対する意見

(1) 市民監査委員
<p>今も昔も児童生徒の学力向上は、教師・保護者・市民の共通した願いである。児童生徒の学力向上には、学校教育ばかりでなく家庭教育や地域の協力が必要と考える。学校において学力向上研究成果発表会、教育フォーラム・教育セミナー等の対策事業が行われすばらしい。これらにより、児童生徒の学力向上の成果が今まで以上に上がるよう望む。ただし、活動目標の内容が3年間ほとんど変わらないというのはいかなるものか。昨年にならえ的な行事消化で1年が終わっていないか見直しをお願いしたい。またセミナー等に参加する先生方が、発表に対してほとんど質問をしないことが残念である。些細なことでも、一つの発言をきっかけに大いに議論が盛り上がる場であってほしい。その他、教育フォーラムの講演と市P連で開催した講演の講師が同じであったことがあった。(聴衆の中にはどちらも出席する人がいるので) 講演の講師が重ならないよう、教育委員会と関係団体と密に連絡を取り合うようにしてほしい。また「みなまた科」の取組はとても良いと思う。頑張ってもらいたい。</p>
(2) 教育委員
<p>各教師の努力や家庭の協力により、成果は確実に表れてきている。反面、学力向上宣言等マンネリ化している兆候がある。今後は学力の向上を指導法の改善を図るばかりでなく、心の教育の充実や地域の教育力の活用、教師の児童生徒と向き合う時間の確保等で、心豊かな児童生徒の育成を図る必要がある。</p>

教育委員会重要政策実施状況評価表

事業名	03	いじめ、虐待、不登校児童生徒対策の充実		
事業期間	平成22年度から平成24年度		担当部署	教育総務課

1. 政策の目的・目標

いじめ、虐待、不登校の問題を抱える本市の児童生徒の自立を支援するため、関係機関との連携を強化しながら課題解決に努める。そのために、適応指導水俣教室を中心とした取組を段階的に発展させ、関係機関のネットワークの構築を図りながら取組を進める

2. 投入経費と指標

(1) 【投入経費】

	平成22年度	平成23年度	平成24年度
事業費 (A)	2,550	2,550	3,455
換算人件費 (B)	540	540	0
投入経費 (A+B)	3,090	3,090	3,455
(参考) 間接事業費	0	0	0

※換算人件費は事業に従事した延べ日数に27千円を乗じて算出すること

※(参考)間接事業費は、市費、国県補助以外で、事業に行うにあたり投入された経費を記入

(2) 【活動目標】

	平成22年度	平成23年度	平成24年度
目標	関係機関とのネットワークを深め、いじめ、不登校、虐待の問題を抱える児童生徒への効果的な取組を行う。	関係機関とのネットワークを深め、いじめ、不登校、虐待の問題を抱える児童生徒への効果的な取組を行う。	関係機関とのネットワークを深め、いじめ、不登校、虐待の問題を抱える児童生徒への効果的な取組を行う。

■本年度の活動目標の説明(事業として何をするか)

- ・自立支援事業推進協議会において、いじめ防止部会・虐待防止部会・不登校防止部会の3部会で情報交換、連携等を行い、未然防止及び早期発見・早期解決の取組を推進する。
- ・適応指導水俣教室において、各学校に在籍する不登校・不登校傾向の児童生徒を支援する。

(3) 【実績】

	平成22年度	平成23年度	平成24年度
実績	①「問題を抱える子ども等の自立支援事業推進協議会」で3つの部会の設立②各部会の取組推進と情報交換③各部会の定例会の実施(4回)④自立支援フォーラムの実施	①自立支援事業推進協議会での3部会の取組推進②各部会の取組推進と情報交換③各部会の定例会の実施(3回)④適応指導水俣教室における支援	①自立支援事業推進協議会での3部会の取組推進②各部会の取組推進と情報交換③各部会の定例会の実施(3回)④適応指導水俣教室における支援

■本年度の実績の説明(目標に対してどの程度達成したか)

- ・自立支援事業連絡協議会は予定した3回の定例会を開催することができた。
- ・いじめ防止部会では、すべての小中学校を対象とした携帯電話に関するアンケートを実施し、結果の分析等を行った。
- ・虐待防止部会、不登校防止部会では、チェックリストを作成し、各小中学校への周知を図った。

3. 状況評価

(1) 成果		点数	理由
○	想定以上に成果があがった	4	<ul style="list-style-type: none"> いじめアンケートの結果については、小中学校ともに昨年度の人数より減少した。 不登校の児童生徒数は昨年度から横ばいである。
	想定どおりの成果であった	2	
	想定を下回った	0	
	想定を大きく下回った	-1	
(2) 効率性		点数	理由
○	大変効率よくできた	3	<ul style="list-style-type: none"> 自立支援事業推進協議会における各部会の取組が充実し、各学校に還元できる内容が多かった。 チェックリストの作成やアンケート結果を活用することにより、未然防止の取組が充実することが期待できる。
	概ね効率よくできた	2	
	効率がよくなかった	1	
	全く効率が悪かった	0	

【総合評価】

- A かなりの成果を上げ、今後も維持できるよう努めるもの (7~6点)
 B 一応の成果は上げているが、更なる向上を目指すもの (5~4点)
 C 改善若しくは早急の見直しが必要なもの (3~2点)
 D 当初の目的を達しないなど、事業そのものが困難なもの (1~-1点)

評価	点数
B	5 点

4. 今後の方向性 (課題と見直し)

(1) 課題と方向性	維持	改善	見直し	休止	終了
<ul style="list-style-type: none"> いじめの認知件数は減ったものの、自立支援事業連絡協議会や関係機関と各学校との連携、学校総体の取組について改善を図る。 					
(2) 改善・見直しの具体的内容					
<ul style="list-style-type: none"> 自立支援事業連絡協議会の構成を見直し、福祉、医療、地域、警察等との連携を充実させ、早期解決に努める。 各学校における取組強化のために、児童会・生徒会を中心とした子ども主体の自立支援活動を推進する。 					

5. 政策に対する意見

(1) 市民監査委員
<p>水俣市には自立支援事業推進協議会があり、さらにいじめ防止部会・虐待防止部会・不登校防止部会による情報交換の連携がなされ、未然防止の取組がよくできている。適応指導水俣教室における不登校児童生徒の支援も充実しておりすばらしい。いじめや不登校児童生徒の数が一人でも少なくなるように、家庭や地域の協力を得て頑張ってください。いじめや虐待・不登校というのは、デリケートな問題なだけに、関係者の皆さんが、細心の注意を払って対応していることがわかる。しかし、(自立支援事業等に協力している) 民生委員、児童委員の方々が、具体的にどう活動しているかがわかりにくい。</p>
(2) 教育委員
<p>自立支援事業推進協議会は、各機関が連携することの難しさをクリアし、早期発見や適切な対応を具体的に進めていく組織として期待が大きい。個々の部会が現時点で可能なことを着実に実行し、成果もあがってきている。今後は活動内容を周知・還元させるために、発表する場等の設定が必要だと思う。</p>

教育委員会重要政策実施状況評価表

事業名	04	環境教育（学校版環境ISO）の推進	
事業期間	平成22年度から平成24年度		担当部署 教育総務課

1. 政策の目的・目標

本市は環境モデル都市に指定され、各学校における環境教育の推進にもさらに取り組んでいく必要がある。これまでも学校版環境ISOの取組は実施しており、今後はCO2削減も視野に入れた環境教育の充実を図っていく。

2. 投入経費と指標

(1) 【投入経費】

	平成22年度	平成23年度	平成24年度
事業費 (A)	300	300	0
換算人件費 (B)	0	0	0
投入経費 (A+B)	300	300	0
(参考) 間接事業費	0	0	0

※換算人件費は事業に従事した延べ日数に27千円を乗じて算出すること

※(参考)間接事業費は、市費、国県補助以外で、事業に行うにあたり投入された経費を記入

(2) 【活動目標】

	平成22年度	平成23年度	平成24年度
目 標	各学校における学校版環境ISOの取組等を充実させる。	1. 各学校における学校版環境ISOの取組の充実及び環境教育の充実を図る。 2. 研究指定校（湯出小学校）の発表により啓発を図る。	各学校における学校版環境ISOの取組の充実及び環境教育の充実を図る。

■本年度の活動目標の説明（事業として何をするか）

- ・熊本県教育委員会主催の「学校版環境ISOコンクール」に全小中学校が参加する。
- ・小学校5年生を対象とした県事業「水俣に学ぶ肥後っ子教室」により、水俣病資料館・県環境センター、国立水俣病情報センター等を訪問し、校外学習を行う。
- ・「総合的な学習の時間」の中の環境学習として、環境クリーンセンターの施設見学、ごみ分別の方法等を学ぶ。
- ・月々の電気使用量、ごみの排出量、給食残食量等を記録し、グラフ化するなどして掲示する。

(3) 【実績】

	平成22年度	平成23年度	平成24年度
実 績	①年3回の市小中学校環境教育担当者会の実施 ②環境教育研究指定校に湯出小を指定し、研究推進を実施③全小中学校による環境ISOコンクールへの参加	①年3回の市小中学校環境教育担当者会の実施。②環境教育研究指定校に湯出小学校を引き続き指定し、研究推進を実施。③全小中学校による環境ISOコンクールへの参加	① 市小中学校環境教育担当者会の実施 ② 全小中学校による環境ISOコンクールへの参加

■本年度の実績の説明（目標に対してどの程度達成したか）

- ・小中学校環境教育担当者会（5月31日実施）において、環境モデル都市推進課から講師を招き学校版ISOの取組及び更新についての説明を受けた。
- ・県学校版環境ISOコンクールには全小中学校が参加し、水俣第二中学校が最優秀賞を取得した。（水俣第二中学校は、全国環境美化教育優良校等表彰でも最優秀賞。）

3. 状況評価

(1) 成果		点数	理由
○	想定以上に成果があがった	4	児童生徒の ISO の取組について、自主的に取組むことにより、関心が高まってきている。また、このことに関連して、保護者の意識も徐々に高まってきている。水俣第二中学校が全国環境美化教育最優秀校として表彰される等の成果が見られた。
	想定どおりの成果であった	2	
	想定を下回った	0	
	想定を大きく下回った	-1	
(2) 効率性		点数	理由
○	大変効率よくできた	3	児童生徒の全体的な ISO の意識の高まりを考えると、個人差も出ている。無関心な児童生徒もいるため、いろいろな働きかけをとおして、環境の大切さを意識させ、環境教育の実践を図っていくようにしたい。
	概ね効率よくできた	2	
	効率がよくなかった	1	
	全く効率が悪かった	0	
【総合評価】 A かなりの成果を上げ、今後も維持できるよう努めるもの (7~6点) B 一応の成果は上げているが、更なる向上を目指すもの (5~4点) C 改善若しくは早急の見直しが必要なもの (3~2点) D 当初の目的を達しないなど、事業そのものが困難なもの (1~-1点)			
		評価	点数
		A	6 点

4. 今後の方向性 (課題と見直し)

(1) 課題と方向性	維持	改善	見直し	休止	終了
水俣市においては、学校版 ISO の取組は平成 12 年度に始まっており、各学校での環境教育は定着している。それだけに、マンネリ化も懸念される。					
(2) 改善・見直しの具体的内容					
現在の取組を維持しながら、環境モデル都市推進課と連携をはかり、新しい情報を取り入れながら環境教育を進めていく。					

6. 政策に対する意見

(1) 市民監査委員
水俣市は環境モデル都市に指定されており、学校における児童生徒の環境活動が盛んである。県の学校版環境 ISO コンクールには、全小中学校が参加しておりすばらしい。特に水俣第二中学校の最優秀賞の受賞は見事である。そして市内小中学校には、環境活動や学習が定着しており、うれしいことである。マンネリ化を防ぐために、色々新しいアイデアを取り入れて進化してほしい。熊本県環境センターの指導員を派遣してもらって学習することも良いと思う。ただし「水俣に学ぶ肥後っ子教室」での校外学習は、熊本県環境センター・水俣病資料館に、ただ行っただけで終わらないよう、その後の学習に工夫が必要だろう。
(2) 教育委員
水俣の児童生徒の環境への意識が高いことは誇りである。市内外に大いに PRするとともに教科学習や郷土学習のよき教材として、水俣の教育の柱の一つとしてさらに充実させたい。また、学校から生徒を地域のリサイクル活動に参加させることは非常に良いことだが、もう少し自発性を育てたい。

教育委員会重要政策実施状況評価表

政策事業名	05	給食センターでの食育推進・地産地消推進事業	
事業期間	平成22年度から平成24年度	担当部署	給食センター

1. 政策の目的・目標

学校・地域・家庭と連携して、学校給食を生きた教材として活用した食育を推進する。また、生産者の顔が見える地場産食材を給食に使用し、旬の食材を使った水俣・芦北メニューなどの献立を実施して、地産地消を推進する。

2. 投入経費と指標

(1) 【投入経費】

	平成22年度	平成23年度	平成24年度
事業費 (A)	104,893	92,962	94,078
換算人件費 (B)			
投入経費 (A+B)	104,893	92,962	94,078
(参考) 間接事業費			

※換算人件費は事業に従事した延べ日数に27千円を乗じて算出すること

※(参考)間接事業費は、市費、国県補助以外で、事業に行うにあたり投入された経費を記入

(2) 【活動目標】

	平成22年度	平成23年度	平成24年度
目 標	1. 食育の推進 食に関する指導、見学、視察、 試食会、研修会の実施 2. 地産地消の推進 地場産食材の増加	1. 食育の推進 食に関する指導、見学、視察、 試食会、研修会の実施 2. 地産地消の推進 地場産食材の増加、献立充実	1. 食育の推進 食に関する指導、見学、視察、 試食会、研修会の実施 2. 地産地消の推進 地場産食材の増加、献立充実

■活動目標の説明(事業として何をするか)

食育の推進として、食に関する指導を各学校で実施し、見学、視察、試食会を実施し、給食センターを食育の拠点として活用する。また地場産食材を使用した給食「ふるさとくまさんデー」、水俣・芦北メニューを実施し、菜種・菜の花新芽の収穫体験学習を行い、生産者と連携した地産地消を推進する。

(3) 【実績】

	平成22年度	平成23年度	平成24年度
実 績	1. 食に関する指導55回、 見学11回、視察10回、試 食会27回実施 2. 地場産食材納入品目38 ・収穫体験学習2校実施	1. 食に関する指導44回、 見学15回、視察9回、試食 会20回実施 2. 地場産食材納入品目40 ・収穫体験学習2校実施	1. 食に関する指導39回、 見学12回、視察6回、試食 会22回、親子料理教室1回 2. 地場産食材納入品目41 ・収穫体験学習2校実施

■実績の説明(目標に対してどの程度達成したか)

食育の推進としては、食に関する指導を全校で実施し、見学、視察、試食会を実施して、施設の充実した活用ができた。地場産食材納入品目は、高菜漬けが加わり41品目となり、菜種・菜の花新芽の収穫体験学習を2校で実施した。新しい取組として、夏休みに給食センター見学会を実施し、春休みに環境モデル都市フェスタで、一般市民に給食の試食を提供し、給食センターの地産地消の取組を紹介した。

3. 状況評価

(1) 成果		点数	理由				
○	想定以上に成果があがった	4	事業の目標にあげた取組について、全部実施できた。新しい取組として給食センター見学会や環境モデル都市フェスタに参加するなど、充実した活動ができた。また、学校給食献立発表会で、保護者と一緒に考えた地元の食材を使った給食を発表することもできた。				
	想定どおりの成果であった	2					
	想定を下回った	0					
	想定を大きく下回った	-1					
(2) 効率性		点数	理由				
○	大変効率よくできた	3	新しく環境モデル都市推進課と連携した活動や、夏休み・春休み期間の給食センター施設の活用が実施できた。				
	概ね効率よくできた	2					
	効率がよくなかった	1					
	全く効率が悪かった	0					
【総合評価】							
A かなりの成果を上げ、今後も維持できるよう努めるもの (7~6点) B 一応の成果は上げているが、更なる向上を目指すもの (5~4点) C 改善若しくは早急の見直しが必要なもの (3~2点) D 当初の目的を達しないなど、事業そのものが困難なもの (1~-1点)			<table border="1"> <tr> <td>評価</td> <td>点数</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">A</td> <td style="text-align: center;">6 点</td> </tr> </table>	評価	点数	A	6 点
評価	点数						
A	6 点						

4. 今後の方向性 (課題と見直し)

(1) 課題と方向性	維持	改善	見直し	休止	終了
今後も、給食を生きた教材として活用した食育に取り組み、子どもの頃からの食育の推進に取り組んでいく。地元の旬の食材を使った安心安全でおいしい魅力ある給食を目指し、地産地消を推進する。					
(2) 改善・見直しの具体的内容					
食育・地産地消の推進事業について、これまでの取組を充実させながら、新しい生産者の開拓や地元の食材を使った献立の開発に努力する。					

5. 政策に対する意見

(1) 市民監査委員
給食センターでの食育の推進はすばらしい。食に関する指導を各学校で実施し、見学、視察、試食会が行われた他、24年度は特に親子料理教室が開かれるなど、数多くの食育推進の実績があがっている。また、夏休中の給食センター見学会及び環境モデル都市フェスタで給食試食会や、地産地消の取組の紹介など常に新たな取組に挑戦している点が評価できる。地場産食材納入品目が41品目に達しているのは、生産者との緊密な協力体制の成果と思われる。10数年前に、「水俣の食材で給食を作る会」が、農林水産課の主導で始まったが、当時は給食センターに、ことごとく提案を否定されたものだった。現在の給食センターは非常に柔軟に対応している。学校給食献立発表会における、保護者を巻き込んだメニュー開発も、実に楽しいものである。給食について興味をもたせ、食わず嫌い解消のきっかけにもつながっている。
(2) 教育委員
昨今の様々な取組は正に開かれた給食センターと言える。またアレルギー食の対応も万全の注意をもって取り組んでいる。地産地消については、食材の安定した量の確保や、上部機関や各種団体との関係などで難しい面がある中で努力している。今後も児童生徒の食への関心、健康意識の向上、また地場産業の活性化に給食センターの役割がいかに大きいかを確信し、事業の推進と、更に安心安全な給食づくりに務めていただきたい。

教育委員会重要政策実施状況評価表

事業名	06	日本一の読書のまちづくり
事業期間	平成22年度から平成24年度	担当部署 生涯学習課図書館

1. 政策の目的・目標

平成20年度策定の日本一の読書のまちづくり推進計画に基づき、「すべての市民が読書に親しみ、人生をより深く生きる生命(いのち)安らぐまち」を目指して、図書館を核として家庭や学校、地域での読書活動を振興している。さらに、第2回みなまた環境絵本大賞募集事業を実施し、広く全国に応募者を募り、大賞を読書活動が次世代の子ども達へ未来を託す基盤づくりに大いに役立つものとして、また、高齢者の生涯学習の一環として、読書活動を通して、市民が心豊かに暮らせるまちづくりを推進していく。

2. 投入経費と指標

(1) 【投入経費】

	平成22年度	平成23年度	平成24年度
事業費 (A)	3,494	7,986	7,570
換算人件費 (B)	8,624	6,192	6,615
投入経費 (A+B)	12,118	14,178	14,185
(参考) 間接事業費	0	0	0

※換算人件費は事業に従事した延べ日数に27千円を乗じて算出すること

※(参考)間接事業費は、市費、国県補助以外で、事業に行うにあたり投入された経費を記入

(2) 【活動目標】

	平成22年度	平成23年度	平成24年度
目標	みなまた環境絵本大賞事業の推進 水俣市読書のまちづくり推進計画の具体的取組の実施	図書館情報システムの導入 みなまた環境絵本大賞事業 コンビニへのブックポストの設置 「みなよむ号」の活動推進 ぐるりんばブックスタート事業 読書のまちづくり推進計画の具体的取組の実施	図書館施設改修整備事業 みなまた環境絵本出版 「みなよむ号」の活動推進 ぐるりんばブックスタート事業 まちかど図書コーナーの増設

■本年度の活動目標の説明(事業として何をするか)

- ・隔て壁撤去及び駐輪場増設工事
- ・第2回みなまた環境絵本の出版
- ・動く絵本館みなよむ号の派遣事業
- ・ぐるりんばブックスタート事業
- ・まちかど図書コーナーの増設

(3) 【実績】

	平成22年度	平成23年度	平成24年度
実績	みなまた環境絵本大賞 「ひよっこりじぞう」3月出版。 ぐるりんばブックスタート事業 まちかど図書コーナーの設置 動く絵本館みなよむ号活動推進 親子20分間「家読」の推進	図書館情報システムのリプレイス みなまた環境絵本大賞(募集)事業 コンビニへのブックポストの設置 「みなよむ号」の活動推進 ぐるりんばブックスタート事業 読書のまちづくり推進計画の具体的取組	図書館施設改修整備事業 みなまた環境絵本大賞出版 「みなよむ号」の活動推進 ぐるりんばブックスタート事業 まちかど図書コーナーへ本の配本

■本年度の実績の説明(目標に対してどの程度達成したか)

- ・駐輪場の増設及び防犯上の問題から「隔て壁撤去工事」を学生が多くなる夏休み前に行い、駐輪場として使用できるように整地したことにより、あまり混雑しなかった。
- ・第2回みなまた環境絵本「古どうぐるぐる」が平成25年3月出版された。出版発表会を平成25年3月24日のエコフェスタの中で実施し、テレビ局の取材や記者会見も行い販促活動にも役立った。
- ・動く絵本館「みなよむ号」は、市内の保育園、幼稚園、小学校イベントやローズフェスタ等多くのイベントに活用されるなど幅が広がっている。(H24年度実績:38回、2,489件)
- ・ぐるりんばブックスタート事業は津奈木町と合同で実施しており、4ヶ月乳児検診時に絵本を1冊贈呈(4,6ヶ月乳児に読み聞かせを行う)総計:235冊(水俣市:202冊、津奈木町:33冊)
- ・まちかど図書コーナーにリサイクル本等の活用を図った。

3. 状況評価

(1) 成果		点数	理由				
○	想定以上に成果があがった	4	隔て壁撤去及び駐輪場増設工事を行ったことにより、駐車スペースが増え、死角になっていた箇所が解消され防犯上の面からも改善された。また、みなまた環境絵本大賞への市民参加を促進するため、小中高生、大人を対象とした創作童話ワークショップを開催した。さらに、第1回子ども創作童話大賞事業を創設し、16件もの応募があった。また、動く絵本館「みなよむ号」やぐるりんばブックスタート事業の影響によると思われるが、アンケート結果で絵本の読み聞かせをする家庭が増えている。				
	想定どおりの成果であった	2					
	想定を下回った	0					
	想定を大きく下回った	-1					
(2) 効率性		点数	理由				
○	大変効率よくできた	3	具体的な取組を実施している中で、図書館を核として、地域や学校、家庭の読書活動の推進は重要である。特に、スクールライブラリーでは、幼稚園には絵本を、各小中学校図書館には児童書等の配布を行い、不足する図書の補填を行っているところである。また、地域公民館へは、身近に本に触れる機会として、まちかど図書コーナーを設けてリサイクル本の活用を図るなどしている。				
	概ね効率よくできた	2					
	効率がよくなかった	1					
	全く効率が悪かった	0					
【総合評価】							
A かなりの成果を上げ、今後も維持できるよう努めるもの (7~6点)			<table border="1"> <tr> <td>評価</td> <td>点数</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>6点</td> </tr> </table>	評価	点数	A	6点
評価	点数						
A	6点						
B 一応の成果は上げているが、更なる向上を目指すもの (5~4点)							
C 改善若しくは早急の見直しが必要なもの (3~2点)							
D 当初の目的を達しないなど、事業そのものが困難なもの (1~-1点)							

4. 今後の方向性 (課題と見直し)

(1) 課題と方向性	維持	改善	見直し	休止	終了
<ul style="list-style-type: none"> ・日本一の読書のまちづくり推進計画に基づき具体的な取組を展開している。図書館を核として、地域や家庭、学校との連携については、まだまだ広がり薄いと思われる。今後の課題としては、地域(まちかど図書コーナーの設置)、家庭(ノーテレビ、ノーゲームの普及)、学校(朝読書、スクールライブラリーの実施)等での読書活動についてのさらなる連携を図ることが課題である。 ・平成25年3月末に第2回みなまた環境絵本「古どうぐるぐる」が出版された。平成25年度は、第3回環境絵本大賞を募集するが、応募者を増やすためには、募集告知の方法、アマ限定をプロにも広げ、作画付も可とする等検討が必要である。 					
(2) 改善・見直しの具体的内容					
<ul style="list-style-type: none"> ・創作童話ワークショップは、指導者部門や親子やボランティアへ絵本の読み方の指導等新しい部門を追加した。また、環境絵本大賞の募集は、隔年であるため、募集のない平成24年度には、第1回子ども創作童話大賞事業(小学3年から中学3年)を創設し、16件の応募があり、10月の図書館まつり時に大賞等の表彰を行った。平成25年度は、創作絵本ワークショップを計画している。 ・地域、家庭、学校における読書活動を推進するうえで、図書館からの図書資料案内などの情報発信、読書活動推進の啓発、地域でのみなよむ号の活用やまちかど図書コーナーの更なる増設など具体的な取組を進めていく必要がある。 					

5. 政策に対する意見

(1) 市民監査委員
現在の市立図書館は、一昔前とはまったくイメージが変わっている。様々なコーナーがあり、本を手に取りやすくなった。限られた予算の中で、お金をかけることにはかけて、かけない部分には知恵とアイデアを絞って事業を実施していて、市民と本の距離を縮めようとしていることがわかり、脱帽である。図書館が核となって、地域・学校・家庭等での読書活動を、ますます推進していただきたい。第2回みなまた環境絵本「古どうぐるぐる」の出版はすばらしい。今後も第3回、第4回とこの事業が続いていくよう願っている。
(2) 教育委員
新しい発想と実行力により様々な事業で成果が上がってきている。館内のレイアウトにも工夫がされており、市民に親しまれる図書館づくりに努力していることがわかる。建物自体の老朽化が否めず、ハード面での課題が大きいので、国の補助事業等を把握し、予算措置を考え施設の改善を図っていくことが必要である。

教育委員会重要政策実施状況評価表

事業名	07	人権教育推進事業	
事業期間	平成22年度から平成24年度		担当部署 生涯学習課

1. 政策の目的・目標

本市においては、重大な人権課題として水俣病問題を抱えている。この課題に対しては、環境問題という側面も含め、様々な取り組みがなされているが、そのために問題が特化され、水俣病問題以外のあらゆる人権問題とのつながりを理解する妨げになっている傾向も見受けられる。あらゆる人権問題、差別の根底にあるものを理解することで、市民の人権意識の高揚を図り、そのことが人権問題としての水俣病の解決につながっていくことを目的とする。

2. 投入経費と指標

(1) 【投入経費】

	平成22年度	平成23年度	平成24年度
事業費 (A)	2,059 (1,191)	2,078 (1,238)	3,931 (3,091)
換算人件費 (B)	5,076	5,076	5,076
投入経費 (A+B)	7,135	7,154	9,007
(参考) 間接事業費	0	0	0

※換算人件費は事業に従事した延べ日数に27千円を乗じて算出すること

※(参考)間接事業費は、市費、国県補助以外で、事業に行うにあたり投入された経費を記入

(2) 【活動目標】

	平成22年度	平成23年度	平成24年度
目 標	1) ヒューマンライツ・セミナーの実施 2) 出前講座の実施	1) ヒューマンライツ・セミナーの実施 2) 出前講座の実施 3) 教職員等を対象とした水俣病啓発事業の実施	1) ヒューマンライツ・セミナーの実施 2) 出前講座の実施 3) 教職員等を対象とした水俣病啓発事業の実施

■活動目標の説明(事業として何をするか)

- 1) 中学生を対象としたヒューマンライツ・セミナーを7月から3月まで実施し、部落差別問題、ハンセン病など現地学習を行いながら学習を深める。
- 2) 地域人権教育指導員による市内の各団体(高齢者教室、地域リビングほか)をはじめとする出前講座の開催。
- 3) NPO 法人や水俣病語り部と共同で各教育事務所管内教職員に水俣病啓発を行う。

(3) 【実績】

	平成22年度	平成23年度	平成24年度
実 績	1) ヒューマンライツ・セミナーの実施 2) 出前講座の実施	1) ヒューマンライツ・セミナーの実施 2) 出前講座の実施 3) 教職員等を対象とした水俣病啓発事業の実施	1) ヒューマンライツ・セミナーの実施 2) 出前講座の実施 3) 教職員等を対象とした水俣病啓発事業の実施

■実績の説明(目標に対してどの程度達成したか)

- 1) 中学生を対象としたヒューマンライツ・セミナーを7月から3月まで実施し、部落差別問題、ハンセン病、水俣病など現地学習を行いながら学習を深めた。市内中学校から13人参加。
- 2) 地域人権教育指導員による市内の各団体(いきいき教室)をはじめとする出前講座の開催。
- 3) NPO 法人や水俣病語り部と共同で各教育事務所管内教職員に水俣病啓発を行った。(4箇所)

3. 状況評価

(1) 成果		点数	理由
○	想定以上に成果があがった	4	ヒューマンライツ・セミナー、地域人権教育指導員による市内外での出前講座など積極的に人権啓発を図っている。
	想定どおりの成果であった	2	
	想定を下回った	0	
	想定を大きく下回った	-1	
(2) 効率性		点数	理由
○	大変効率よくできた	3	少ない人員で取り組んでいるが、質・量の向上も図られ、活動量も増加している。
	概ね効率よくできた	2	
	効率がよくなかった	1	
	全く効率が悪かった	0	

【総合評価】

- A かなりの成果を上げ、今後も維持できるよう努めるもの (7~6点)
- B 一応の成果は上げているが、更なる向上を目指すもの (5~4点)
- C 改善若しくは早急の見直しが必要なもの (3~2点)
- D 当初の目的を達しないなど、事業そのものが困難なもの (1~-1点)

評価	点数
A	7 点

4. 今後の方向性 (課題と見直し)

(1) 課題と方向性	維持	改善	見直し	休止	終了
<p>市外の地域の方々には水俣病をはじめとする人権の講演や参加体験型学習を行うとともに、県内の教職員を対象とした水俣病啓発事業の実施を行った。</p> <p>地元においては、中学生を対象としたヒューマンライツ・セミナーの実施、部落解放熊本県研究集会を開催。部落差別問題・水俣病問題等の人権課題を啓発するきっかけとなった。また、地域人権教育指導員が分科会で司会を務められた。中学生以外の年齢層において、更なる啓発が望まれる。</p>					
(2) 改善・見直しの具体的内容					
<p>地元における中学生以外の年齢層の更なる啓発推進として、公民館事業におけるいきいき教室での人権講座の実施の定着が考えられる。</p>					

5. 政策に対する意見

(1) 市民監査委員
<p>人権意識の高揚を図るためにも、人権教育の推進は必要だと考える。しかし、そもそも当事業は水俣市民のための事業である。水俣市管外の教職員を対象にした講習等も実施されているということだが、それは事業から除外すべきではなかろうか。もっと一般市民に向けた地元で根付く人権教育の推進をお願いしたい。それと、あくまでも換算人件費なので、目安にすぎないのかもしれないが、事業費に対し人件費の割合が大きいのではないかと思われる。また総事業費自体が妥当なものであるのか疑問が残る。</p>
(2) 教育委員
<p>市民一人一人の人権意識の高揚となるような啓発事業等をさらに充実させていく必要がある。日常的な人間関係に目をむけることも、人権についての意識をたかめる一因となるのではなかろうか。また人権教育の推進のための、様々な年齢や分野における人材の育成が必要と思う。</p>

教育委員会重要政策実施状況評価表

事業名	08	文化会館自主文化事業	
事業期間	平成22年度から平成24年度		担当部署 生涯学習課

1. 政策の目的・目標

目的：生の優れた舞台芸術等を鑑賞する機会を低料金で提供し、市民の教養を高め、文化向上を図る。
 内容：文化会館における公演の実施
 芸術劇場…児童・生徒対象。小学生向けと中学生向けを隔年で開催する。
 一般公演…音楽、演劇、落語、伝統芸能、舞踊その他様々な舞台芸術の中から、ジャンルに偏りがないように選定、1～2本の上演を行う。
 単なる一方的な鑑賞にとどまらず、プロに学んだりジョイントコンサートを行ったりするなど、住民参加型の催しも積極的に取り入れていく。

2. 投入経費と指標

(1) 【投入経費】

	平成22年度	平成23年度	平成24年度
事業費 (A)	5,536	2,129	6,287
換算人件費 (B)	3,294	4,860	4,752
投入経費 (A+B)	8,830	6,989	11,039
(参考) 間接事業費	2,200	0	4,347

※換算人件費は事業に従事した延べ日数に27千円を乗じて算出すること

※(参考)間接事業費は、市費、国県補助以外で、事業に行うにあたり投入された経費を記入

(2) 【活動目標】

	平成22年度	平成23年度	平成24年度
目 標	公演2本の実施	公演2本の実施 劇団四季との共催による児童招待公演1本の実施	水俣演奏家協会との共催による第九演奏会(住民参加型・合唱団は一般募集) 小学校芸術劇場(クラシックコンサート)の実施

■活動目標の説明(事業として何をするか)

みなまた「第九」演奏会…ベートーヴェンの交響曲第9番「合唱付き」の演奏会。第4楽章で歌う合唱団を一般募集する。水俣演奏家協会との共同主催による、住民参加型公演。トップクラスの指揮者・オーケストラと共に演奏を創り上げていく内容で、参加者・鑑賞客の満足度向上を目指す。

小学校芸術劇場「音楽のおくりもの」…東京藝術大学卒業生を中心とした優秀な演奏家による公演。有名なクラシックを中心に、楽器紹介や参加コーナーを交え、音楽に親しむ時間を提供する。

(3) 【実績】

	平成22年度	平成23年度	平成24年度
実 績	小学校芸術劇場(ミュージカル)・劇団わらび座ミュージカル公演実施	宝くじまちの音楽会「南こうせつ with ウー・ファン～心のうたコンサート～」、中学校芸術劇場(音楽劇)音楽劇「走れメロス」、こころの劇場・劇団四季ミュージカル(小学生無料招待)実施	・みなまた「第九」演奏会(川瀬賢太郎、九州交響楽団、ソリスト4名、みなまた「第九」を歌う会) ・小学校芸術劇場「音楽のおくりもの」(アンサンブル・ディヴェルターズ)

■実績の説明(目標に対してどの程度達成したか)

◎みなまた「第九」演奏会(12月2日) チケット938枚完売、入場者は849人、入場率90.5%。目標水準(入場者80%)を達成した。11月中旬にはチケットは完売。一般募集して編成した合唱団(約200人)は8か月間にわたる熱心な練習を経て堂々と歌い上げ、指揮者の川瀬賢太郎氏、九州交響楽団とともに満場の惜しめない拍手喝采を浴びた。

◎小学校芸術劇場「音楽のおくりもの」(12月6日) クラシック音楽を中心としたコンサート。目標は市内小学校全児童の動員とし、ほぼ全児童1,177人が鑑賞した。単なる演奏だけでなく、ユーモアたっぷりに楽器の解説をまじえたり、一緒に合唱したりという内容で、たっぷりと音楽に親しむ時間となった。

3. 状況評価

(1) 成果		点数	理由				
○	想定以上に成果があがった	4	一般公演は入場率 90.5% で目標を上回った。チケットは完売後も求める声が多かった。練習に励む合唱団の熱心な姿勢が市民の関心を高めたようで、住民参加型公演として成功したといえるのではないかと。また、感動の声や再演要望の声も多く寄せられ、十分な手ごたえを感じられた。				
	想定どおりの成果であった	2					
	想定を下回った	0					
	想定を大きく下回った	-1					
(2) 効率性		点数	理由				
○	大変効率よくできた	3	今回は市内の音楽団体である水俣演奏家協会と共催で行った。合唱団の練習指導・団運営を同協会が担ったことにより、見事な演奏が実現した。専門性を活かして役割を分担したことにより、効率を高め、公演を成功させることができた。				
	概ね効率よくできた	2					
	効率がよくなかった	1					
	全く効率が悪かった	0					
【総合評価】							
A かなりの成果を上げ、今後も維持できるよう努めるもの (7~6点) B 一応の成果は上げているが、更なる向上を目指すもの (5~4点) C 改善若しくは早急の見直しが必要なもの (3~2点) D 当初の目的を達しないなど、事業そのものが困難なもの (1~-1点)			<table border="1"> <tr> <td>評価</td> <td>点数</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; font-size: 2em;">A</td> <td style="text-align: center; font-size: 2em;">6 点</td> </tr> </table>	評価	点数	A	6 点
評価	点数						
A	6 点						

4. 今後の方向性 (課題と見直し)

(1) 課題と方向性	維持	改善	見直し	休止	終了
効果的な演目の選定と住民参加型公演の提供 かつて好評を得たものに演目を集中すると偏りが生じ、知名度のあるものは公演料が高くなる。限られた予算の中で、関心を抱かせるような演目を選定し、広報していくことが課題である。 方向性としては、2年連続しての住民参加型公演が想定以上の効果を生んだため、これを参考として、今後も住民が参加できるような企画、興味をひくような企画を盛り込んでいきたい。					
(2) 改善・見直しの具体的内容 市民の関心を高める公演を実施するため、時流に応じたもの、わかりやすいものを選定したり、社会教育委員の方々の意見を伺ったり、各機関の助成・補助等を利用して予算を増強したりして選定していきたい。					

5. 政策に対する意見

(1) 市民監査委員 みなまた「第九」演奏会は、第4楽章において住民参加型の合唱を行い、また小学生芸術劇場「音楽のおくりもの」は演奏だけでなく楽器のお話、演奏者と参加者との合唱を行い、どちらも素晴らしいものになった。住民参加型の事業を実施することで、子どもから大人まで楽しむことができただけでなく、それまでクラシックに興味のなかった人々をも引き込む最高の文化事業になった。この事業が素晴らしい結果に終わったことで、水俣市民に「水俣ってすごいところなんだ」と自信をつけさせた。この事業を企画した方も、それに応えて何ヶ月も練習に通った参加者の市民の方々もすごいと思う。
(2) 教育委員 以前に比べ稼働率が下がっている様に思う。財政面の事情は否めないもので、文化庁の事業や企業のメセナ事業等を活用し、少ない予算で効果的な事業の展開が望まれる。文化度の高さは市民の心の豊かさにつながる。みなまた「第九」など住民参加型の取組はすばらしかった。住民参加をキーワードに今後も工夫ある企画をお願いしたい。

教育委員会重要政策実施状況評価表

政策事業名	09	公民館自主文化事業
事業期間	平成22年度から平成24年度	担当部署 生涯学習課

1. 政策の目的・目標

公民館は、多様な学習機会や集会の場を提供し、地域における住民の学習需要に総合的に応えている。
 また、地域社会の形成や地域文化の振興にも貢献し、住民の日常生活に最も身近な学習のための施設の役割も果たしてきている。
 今後も学習機会の充実のため、公民館が中核的な役割を果たしていくことが求められる。

2. 投入経費と指標

(1) 【投入経費】

	平成22年度	平成23年度	平成24年度
事業費 (A)	1,168	2,076	2,426
換算人件費 (B)	540	756	783
投入経費 (A+B)	1,708	2,832	3,512
(参考) 間接事業費	691	715	932

※換算人件費は事業に従事した延べ日数に27千円を乗じて算出すること

※(参考)間接事業費は、市費、国県補助以外で、事業に行うにあたり投入された経費を記入

(2) 【活動目標】

	平成22年度	平成23年度	平成24年度
目 標	市民教室 14回(月2回) (3,500人) 高齢者教室 10回(月1回) (900人) フェスティバル (1,200人)	市民教室 18回(月2回) (5,000人) 高齢者教室 10回(月1回) (800人) フェスティバル (1,200人)	市民教室 17回(月2回) (4,500人) いきいき教室 10回(月1回) (800人) フェスティバル (1,200人)

■活動目標の説明(事業として何をするか)

- ★市民教室：本館 料理、書道、パッチワーク、健康ダンス、男の料理、大挙拳、絵てがみ、絵染め、デッサン、3B体操、朗読、小原流生け花、ハーモニカ、パソコンの15講座
 分館：小原流生け花、池坊生け花、ペン字、中国語、料理、易学の6講座
- ★いきいき教室：高齢者、婦人会、広く市民を対象に月1回計10回の講演を実施した。
- ★主催講座として、夏休み子ども教室(129人)、寄せ植え教室(56人)、パソコン教室(157人)、iPhone教室(24人)を新しく実施した。

(3) 【実績】

	平成22年度	平成23年度	平成24年度
実 績	市民教室 14回(月2回) (3,016人) 高齢者教室 10回(月1回) (675人) フェスティバル (900人)	市民教室 18回(月2回) (4,944人) 高齢者教室 10回(月1回) (813人) フェスティバル (1,830人)	市民教室 17回(月2回) (4,771人) いきいき教室 10回(月1回) (558人) フェスティバル (1,101人)

■実績の説明(目標に対してどの程度達成したか)

市民教室も新しい講座(デッサン、男の料理、易学)も出来、内容も充実してきた。
 フェスティバルも、実行委員会形式にして、受講生参加者主体のフェスティバルとなった。

3. 状況評価

(1) 成果		点数	理由
○	想定以上に成果があがった	4	目標は達成でき、市民教室も好評であった。
	想定どおりの成果であった	2	
	想定を下回った	0	
	想定を大きく下回った	-1	
(2) 効率性		点数	理由
○	大変効率よくできた	3	全体的に効率よくできたが、いきいき教室の参加が減少してきた。
	概ね効率よくできた	2	
	効率がよくなかった	1	
	全く効率が悪かった	0	
【総合評価】			
A かなりの成果を上げ、今後も維持できるよう努めるもの (7~6点) B 一応の成果は上げているが、更なる向上を目指すもの (5~4点) C 改善若しくは早急の見直しが必要なもの (3~2点) D 当初の目的を達しないなど、事業そのものが困難なもの (1~-1点)			
		評価	点数
		B	4 点

4. 今後の方向性 (課題と見直し)

(1) 課題と方向性	維持	改善	見直し	休止	終了
市民教室受講生の固定化。市民教室の底辺の拡大。 住民のニーズにあった講座の開拓。					
(2) 改善・見直しの具体的内容					
受講を3年まで、4年以上の人は自主サークル設置を呼びかける。それに対する支援。 市民教室講師の公募制を行い新規講座の開拓。					

5. 政策に対する意見

(1) 市民監査委員
平成24年度の市民教室は新しい講座(デザイン、男の料理教室、易学)が増え、合計21講座となり、メニューが充実している。多様な学習の機会と場が提供され、すばらしい事業になっている。またフェスティバルを実行委員会形式にして、市民教室の受講生が主体になる参加型の事業としたことも非常に有意義であった。市民教室やいきいき教室は、高齢の方々の脳や筋肉のトレーニング、老化予防にも役立つだろう。これからはもっと多くの市民が参加できる環境づくりを望みたい。しかし、募集を市報に掲載するだけでは、周知に限界がある。掲載回数を増やしたり、他に広報の仕方を考えることが必要なのではないか。また市内から離れている山間部の市民のための出張市民講座をご検討いただきたい。
(2) 教育委員
3年での受講終了システムは幅広く市民の学習機会を提供するための、新たな取組といえる。周知・理解を図るとともに、自主講座開設を勧め、学びによる生きがいづくり、地域づくりを高めていきたい。また、水俣の歴史や自然を扱った講座の開設により、学校のみならず科の講師や史跡等の案内ボランティアの育成にもつながる可能性があるため、そういった内容の講座の開設も考えてほしい。自主文化事業を推進するために、常に市民への意見徴収と広報活動に務めてもらいたい。

教育委員会重要政策実施状況評価表

政策事業名	10	市民スポーツの推進	
事業期間	平成22年度から平成24年度		担当部署 生涯学習課

1. 政策の目的・目標

スポーツによって、健康で生きがいをもたらすため、市民それぞれのライフスタイルや目的に応じたスポーツ活動の振興に努める。

2. 投入経費と指標

(1) 【投入経費】

	平成22年度	平成23年度	平成24年度
事業費 (A)	9,133	6,105	8,000
換算人件費 (B)	22,680	22,680	22,680
投入経費 (A+B)	31,813	28,785	30,680
(参考) 間接事業費			

※換算人件費は事業に従事した延べ日数に27千円を乗じて算出すること

※(参考)間接事業費は、市費、国県補助以外で、事業に行うにあたり投入された経費を記入

(2) 【活動目標】

	平成22年度	平成23年度	平成24年度
目 標	市民スポーツの推進	市民スポーツのさらなる推進と県地元開催に向けた環境整備	市民スポーツの推進

■活動目標の説明(事業として何をするか)

市主催のスポーツ行事(競り舟大会、市民体育祭、市民駅伝等)を安全に実施する。また、市体育協会の各種目団体が主催する大会の充実を支援する。

市スポーツ推進委員の協力により、ニュースポーツの普及振興と各地域におけるスポーツ大会等の充実を図る。

(3) 【実績】

	平成22年度	平成23年度	平成24年度
実 績	1、市民スポーツ大会の確実な実施 2、体育指導委員によるニュースポーツの普及や地域におけるスポーツ活動の推進	1、市民スポーツ大会の確実な実施 2、体育指導委員によるニュースポーツの普及や地域におけるスポーツ活動の推進 3、平成23年度県民体育祭の開催準備	1、市民スポーツ大会の実施及び充実 2、スポーツ推進委員によるニュースポーツの普及及び各地域におけるスポーツ大会等の実施

■実績の説明(目標に対してどの程度達成したか)

1、市主催のスポーツ大会は、競り舟大会、市民体育祭、市民駅伝が大きなトラブルや事故等もなく無事実施でき、市民スポーツの推進及び地域コミュニティの醸成が図られた。また、各競技スポーツについては、市体協加盟の種目団体により実施され、競技スポーツの普及振興と併せ、子どもたちの体力向上等並びに健全育成に寄与した。

2、市スポーツ推進委員により、ニュースポーツ大会の開催や、地域や学校PTA及び福祉関連団体等からの依頼で、ニュースポーツやレクリエーションスポーツの指導等が行われた。また、自治会等においても、いろんなスポーツ大会が開催され、市民スポーツの推進が図られた。

3. 状況評価

(1) 成果		点数	理由
○	想定以上に成果があがった	4	大きな問題や事故もなく無事に大会を実施できた。 また、大会前にはジョギング等を始める人がおり、スポーツを始める契機となっている。 各種目団体や各自治会等においても、概ね予定どおり大会が実施された。
	想定どおりの成果であった	2	
	想定を下回った	0	
	想定を大きく下回った	-1	
(2) 効率性		点数	理由
○	大変効率よくできた	3	大会アンケートの結果等を踏まえ、関係団体及び協力団体等と協議を行い、概ね効率よく大会を実施できた。
	概ね効率よくできた	2	
	効率がよくなかった	1	
	全く効率が悪かった	0	

【総合評価】

- A かなりの成果を上げ、今後も維持できるよう努めるもの (7~6点)
- B 一応の成果は上げているが、更なる向上を目指すもの (5~4点)
- C 改善若しくは早急の見直しが必要なもの (3~2点)
- D 当初の目的を達しないなど、事業そのものが困難なもの (1~-1点)

評価	点数
B	4 点

4. 今後の方向性 (課題と見直し)

(1) 課題と方向性	維持	改善	見直し	休止	終了
<p>スポーツ大会については、人口減少等により参加チームの減少が懸念されるが、昨年並みの参加者があった。大会終了後のアンケート結果等を踏まえ、関係団体等とも協議しながら、より多くの方に参加してもらえよう大会を目指していく。</p> <p>市スポーツ推進委員はもとより、市体育協会や他の団体等の協力を仰ぎながら、市民スポーツの推進に向けたネットワークづくりも必要である。</p>					
(2) 改善・見直しの具体的内容					
<p>市体育協会の加盟団体は、各種目団体をはじめスポーツ推進委員協議会や小体連及び中体連等で組織されており、各自治会のスポーツ振興会等は入っていない状況である。更なるスポーツ振興を進めていくためには、種目協会だけでなく自治会等も加盟することで、連携を取りやすい体制をつくることも必要である。</p>					

5. 政策に対する意見

(1) 市民監査委員
<p>本市の大きな行事となっている競り舟大会、市民体育祭、市民駅伝はスポーツの推進と地域住民のコミュニケーション作りに大きく貢献しており、健康で明るいまちづくりに役立っている。市民の健康維持、体力増進のため、日頃のウォーキング、ジョギング、ラジオ体操等の奨励、推進をこれからもお願いしたい。それに併せて、「日本一長い運動場」等の運動の場の利用促進も考慮してほしい。体育協会加入団体の大会だけではなく、それぞれの地域で独自に取り組んでいるスポーツ大会もあるので、そちらも市として支援してほしい。その他事業費に占める人件費の割合が大きすぎるのではないか。</p>
(2) 教育委員
<p>スポーツ行事には多くの市民の参加があり、またスポーツ指導員など献身的活動して下さっており、運営が円滑にしていることが伺える。さらに新しい企画や誰でも親しめる地域でのスポーツ活動など常に改善を図っていききたい。本市の場合内容が、陸上関係が多いので、他市町であるように市民体育祭をいくつかの競技の総合大会にするのはどうだろうか。「水泳大会」「ビーチボール大会」「ソフトボール大会」等市民体育祭に組み込んでみるのもおもしろいのではないか。</p>